



静岡大学

浜松医科大学

名古屋大学

岐阜大学

スピーディーな企業成長の手段として、民間企業ではM&Aやホールディングス化は当たり前のように行われています。一般企業とは少々意味合いが違いかも知れませんが、平成15年より進められている国立大学の再編・統合も、もはやそのように考えて進められていくべきでしょう。また、昨年5月に「大学の構造改革の方針」に基づき、大学

### 自立経営が求められる大学統合

それでは第1分類に属する大学はどうでしょうか。実は、地方大学の殆どがこの分類に分けられています。「地域のニーズに応える人材育成・研究を推進」とは、まさに、地方創生のミッションを担うことが求められています。ここに分類される大学は、地方自治体や地域のステークホルダーである民間企業との連携なくては、その役割を果たせないばかりか、持続可能性も問われることになるでしょう。このような環境下では、相当の危機感を持って大学経営を立て直していくことが必要とされますし、発想の転換次第では地域連携を駆使し、壮大なビジョンを描ける可能性が出てきます。

入れて行きたいのが③の分類で、東京大学・京都大学・一橋大学・東京工業大学などが挙げられます。ノーベル賞受賞者も多数輩出し、世界大学ランキングにも入ります。そして②の分類は、その研究教育分野に特徴を持つ、筑波技術大学・東京医科歯科大学・東京芸術大学など、専門分野で活躍する人材を輩出する大学として位置づけられます。おそらく、この2つの分類に属する大学は、国策にも直結する教育機関である為、国も手厚い支援をしていくことが考えられます。

# 地方創生に直結する 産・学・官の連携 と地域における 教育機関の在り方

# 29

## 地方創生にかかわる中小企業の役割



Human Delight株式会社 代表取締役社長

野田 万起子 のだ まきこ

静岡県出身。東京国際大学経済学部国際学科卒業。米国オレゴン州TIUアメリカ校卒業。1993年株式会社バンチャー・リンク入社。2010年同社取締役就任。11年同グループのMBOにより独立。インクグロー株式会社の代表取締役社長を務めたのち、15年より現職。地方自治体の地方創生プロモーションの支援に従事する一方、経済産業省「女性起業家等支援ネットワーク構築事業」の静岡県主宰としても活躍している。

地方創生では長期ビジョンを捉えていく上で、産学官の連携が大変重視されます。しかしながら、国の管轄官庁が異なる中で、それぞれのポジションを理解しての連携の構図を描いていきませんと色々な障害が出てきてしまいます。今回は、現在話題になっている大学統合問題を考えながら「学」に焦点を当ててみたいと思います。背景には、文部科学省が平成17年に打ち出した日本の高等教育の将来像があります。それによると、高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化を示すものとして、大学は①世界的研究・教育拠点、②高度専門業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門分野の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）の各種機能を併有する、とされており、各々の大学は自らの個性・特徴を考え選択していくことになりました。この方向性によって、平成25年に発表された「国立大学改革プラン」では、3つの枠組みが提示され、①地域のニーズに応える人材育成・研究を推進（55大学）、②分野ごとの優れた教育研究拠点やネットワークの形成を推進（15大学）、③世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進（16大学）に分類されたのです。要約すると、国の交付金で運営している国立大学は、日本の高等教育において自らの意思と選択の元で自立した経営を目指して行くことを決められたということになるでしょう。

### 注目すべき第1の分類

さて、この3分類は何を表しているのかという検証をしてみます。グローバルの視点で国が力を

統合の動きが国立大学を中心に活発になっていきます。改正国立大学法人法が成立し、一法人複数大学制（通称アンブレラ方式）が可能になりました。それを踏まえて、今年4月には、名古屋大学と岐阜大学が経営統合し国立大学初の一法人複数大学「東海国立大学機構」が設立されます。このような統合によって、より地域と民間との連携が求められる上で、法人の役割も大変重要になってくるでしょう。

### 法人の存在と大学のビジョンが問われる大学統合

名古屋大学と岐阜大学の経営統合を皮切りに、今後、地方大学の経営統合が加速されると見られます。令和2年には、静岡大学と浜松医科大学の統合が予定されていますが、この統合には様々な物議が醸し出されています。元々、国立静岡大学は静岡市と浜松市にキャンパス（学部）を保有しており、この統合によって静岡キャンパスが静岡大学に、浜松キャンパスは浜松医科大学と一緒になるプランが進んでいます。静岡地区では統合のメリットが薄いと議論になっています。静岡大学の統合プランは異例の一つと言えますが、静岡県全体を俯瞰して見ていくとメリットが多いはずですが、ただし、一法人の元で展開していく大学には地域における個々の大学の「ビジョン」が明確にならないと成長路線が描けないことは否めません。これが地域を担う大学のミッションとも言えるでしょう。そこには、地域の未来を考え、地域に対してどのような研究や人材育成が必要か、地域と共に様々な議論があるべきだと思っています。

先